

ランチョンセミナー 1

(Mentor Corporation, PRSS Japan)

Hyaluronic Acid (HA) for Facial Rejuvenation, Refinements and new Trends

座長

高田 章好 (大阪大・美容医療学)

ランチョンセミナー 2

(サノフィ・アベンティス)

抗菌剤からみたニキビ治療：ロキシスロマイシンのメリット

座長

伊藤 正俊 (東邦大)

ランチョンセミナー 3

(東洋メディック)

プラズマ スキン リジュビネーション

～4th generation resurfacing～

座長

大井 綱郎 (東京医大)

ランチョンセミナー 1 (同時通訳)

(Mentor Corporation, PRSS Japan)

Hyaluronic Acid (HA) for Facial Rejuvenation, Refinements and new Trends

Andre Hermann

Moinhos de Vento Hospital - Porto Alegre - Brazil

The search for the ideal augmentation material for facial soft tissue has been an ongoing effort for many years. Several biomaterials are available for the purpose of soft tissue augmentation, but none of them has all the properties of the ideal filler material. The recent development of PURAGEN, PREVELLE and PREVELLE SILK hyaluronic acid gel fillers for dermal implantation provides the physician with new possibilities of effective treatment in this field. The author presents these new fillers. PURAGEN is a double cross-link 20% HA Filler. PREVELLE is a single cross-link 5.5% HA gel and PREVELLE SILK is associated with lidocaine. Indications for use and treatment planning are discussed, as well as the most indicated product for a given anatomic region. Also, the association of both products to improve results is shown. Many injection techniques are presented and their indication for use depending on the area being treated. Some personal details of injection with the aim to improve results, reduce bruises, swelling and edema are presented. Avoiding and managing complications and the importance of distinguishing technique-related and product-related reactions to the injection are discussed. In addition, the use of hyaluronidase for the treatment of complications is discussed. Some preoperative and postoperative cases are reported to illustrate the versatility of these products. My personal routine is shown, including patient interview, photo documentation, anesthesia, marking the treatment area, and postoperative care. The purpose is to demonstrate what I am doing in my personal practice as an attempt to increasingly obtain better results having as few complications as possible.

(サノフィ・アベンティス)

抗菌剤からみたニキビ治療：ロキシスロマイシンのメリット

戸倉 新樹

産業医科大学皮膚科

ニキビの病原微生物が *P. acnes* であり、その排除がニキビの治療に直接つながることは論を待たない。このために内服薬、外用薬がニキビ治療に用いられる。保険診療上、*P. acnes* が適応菌種である内服薬剤は、ロキシスロマイシン (RXM) をはじめとする 6 薬剤である。しかし抗菌作用のみが RXM のニキビに対する治療効果機序ではない。RXM は抗炎症作用として、好中球に働き炎症の拡大を抑制し、ケラチノサイトに働き前炎症性サイトカイン産生を抑制する。加えて免疫調整作用も持ち、さらに抗アンドロゲン作用、皮膚神経系に対する作用、角化に対する作用なども相まって治療効果を発揮する。RXM はこうした「炎症性ニキビ」を形作る多方面の反応を抑えることによって治療効果を発揮する。実際、これらの *in vitro* の効果は血中濃度で発揮される。さらに、我々が北九州で行った RXM 投与前後の QOL 調査では、ニキビ患者の QOL を有意に向上させ、かつ医師からみた治療効果と一致したことは驚愕であり、RXM がいかに臨床の場でメリットをもつか如実に表した。

ランチオンセミナー 3

(東洋メディック)

プラズマ スキン リジュービネーション
～4th generation resurfacing～

河野 太郎

東京女子医科大学形成外科

プラズマは、固体／液体／気体に次ぐ第四の物質といわれている。固体から気体になるにつれその分子の動きは活性化され高いエネルギーを持つようになるが、プラズマ状態になるとイオン化が起こり、その動きは更に加速され飛躍的に高いエネルギーを持つことになる。

Portrait Plasma Skin Regeneration (PSR3) は、プラズマを利用し皮膚の自然再生作用を促し、美顔／若返りなど美容全般の適応に対するプラズマ皮膚再生技術である。

Portrait はこのプラズマエネルギーのユニークな熱伝達特性を利用し、ノーダウンタイムのマイルドな治療から、最小限のダウンタイムによるしっかりとした治療まで、非常に幅広い治療を行うことができる。

また、プラズマ技術はレーザーとは全く異なり、色素依存性が無く、蒸散が無いことも大きな特徴である。ターゲットを必要としないため、より安定した治療効果を望むこともでき、肌の色の影響も受けにくい。また治療時にゴーグル類の使用が必要ないほか、これまで治療が難しかった眼窩周囲や口周囲なども、しっかりとした治療を行うことができ、幅広い適応のある皮フ再生器機である。

ランチョンセミナー 4

(サンスター)

1. 炎症後色素沈着について(総論)
2. リノール酸美白剤の可能性について

座長

古江 増隆 (九州大)

ランチョンセミナー 5. 「レーザー治療における患者さまの QOL 向上をめざして」 (資生堂・岩城製薬)

1. 肌のアンチエイジング治療に重要な要素 – 治すために隠す工夫 –
2. 治すために隠す工夫の実際 – 何を使うか、どう使うかの検証 –

座長

宇津木 龍一 (クリニック宇津木流)

山本 有紀 (和歌山医大)

ランチョンセミナー 6

(プロテア・ジャパン)

Long term histological evaluation of topical retinyl palmitate (a cosmetic retinoid) for restoring and maintaining healthy skin and assisting in natural vitamin D production.

座長

船坂 陽子 (神戸大)

(サンスター)

1. 炎症後色素沈着について(総論)

古江 増隆

九州大学大学院医学研究院皮膚科学

色素沈着という現象そのものは生理学的(防御)反応であり肉体的疾病とはいえないが、整容的に QOL を著しく損ねる社会的疾病といえる。Gender によって関心が大きく異なることも特徴である。色素沈着は、生来の肌の色、肌荒れ、肌の潤い、肌のはりなどによって、その目立ちやすさはかなり左右される。長波長および中波長紫外線はともに表皮メラノサイトを活性化し、メラニン生成を克進させる。ピーリングやレーザーは炎症症状を伴い、その際に産生・分泌される各種サイトカインにより、創傷治癒機転の発動とともに、その合併症として色素沈着が生じることがある。紫外線暴露による色素斑の増悪を予防するためには、UVA および UVB の両者をカットするサンスクリーン剤外用が望ましい。サンスクリーン剤を使用できない場合は、衣服やファンデーションによる物理的な遮光も選択肢の一つである。ビタミン C、E、システインなどは抗酸化作用を有し、特に、ビタミン E には DNA の損傷予防および修復促進作用もあるので、炎症による有害な作用を防止する効果が期待されている。色素沈着は年齢を重ねるにつれて増悪する可能性が高く、遮光対策や美白剤の併用は日常のケアとして重要である。

2. リノール酸美白剤の可能性について

瓜生 美樹

九州大学大学院医学研究院皮膚科学、天神総合クリニック皮膚科

シミ治療を目的として来院する患者は年々多くなっており、その治療法としてハイドロキノン製剤が用いられている。その作用機序はチロシナーゼ活性阻害作用であるが、リノール酸はチロシナーゼ活性阻害とは異なった作用機序を有する。サンスター社により開発されたエクイタンスホワイトロジー エッセンスは、リノール酸をリポソーム化製剤にすることにより、形成された色素沈着に対して優れた効果を発揮する。今回のセミナーではリノール酸の作用機序をレビューするとともに、シミ治療におけるリノール酸美白剤外用の症例を紹介する。

更にリノール酸美白剤の新たな用途として、レーザー治療後の炎症性色素沈着に対する検討についても紹介する。近年では、後天性真皮メラノサイトーシスに対してレーザー治療が用いられるケースが多い。レーザー治療は健常皮膚に与えるダメージを最小限にし、病変部のみを速やかに改善させるが、レーザー治療後の病変部の炎症が一過性の色素沈着を引き起こす場合もあり、再発した印象をもつ患者も存在する。そのため、レーザー治療後の炎症性色素沈着予防として美白剤が投与されるが、選択肢の一つとしてリノール酸美白剤の可能性を紹介する。

ランチョンセミナー 5. 「レーザー治療における患者さまの QOL 向上をめざして」
(資生堂・岩城製薬)

1. 肌のアンチエイジング治療に重要な要素―「治すために隠す工夫」―

根岸 圭

東京女子医科大学附属青山女性医療研究所 美容医療科

昨今、アンチエイジング治療は急速に進歩し、シミからたるみまで多様化したニーズにこたえられるようになった。しかし、最もニーズが高いのは依然シミの治療である。我々は、シミに対して IPL や Q スイッチレーザーを用いた治療を積極的に行っているが、治療に伴って形成されるマイクロクラストや痂皮は、数日間とはいえ日常生活に支障をきたしてしまう。

そこで、症状を隠してしまうためにカバーするのではなく、積極的に治療を行うためのカバー、「治すために隠す工夫」ができれば、患者さまの心理的負担が軽減するのではないかと考え、資生堂社開発のコンシーラー、ナビジョンスポットカバーを導入した。

その結果、以前から使用しているコンシーラーと比較し、カバー力に優れ、普段のメイクとのなじみも良いと好評を得たので、さらに用途を広げ、難治性の色素性病変である肝斑の治療過程や、ヒアルロン酸などの注入治療に伴う内出血のカバーにも応用した。

治療全般から見ると、カバーする製品の検討は小さなものかもしれない。しかし、治療効果の追及だけでなく、患者様の心のケアも重視することにより、総合的な満足感と安心感を提供することができる。そのためには本例のように「治すために隠す工夫」も大変重要なことだと考えたため、実際の例を提示し紹介する。

2. 「治すために隠す工夫」の実際—何をを使うか、どう使うかの検証

服部 英子

南青山皮膚科 スキンナビクリニック

昨今レーザーを用いたシミ治療が美容医療現場でさかんに行われている。しかし、レーザー照射後には照射部位の保護と痂皮を隠すために絆創膏等の貼付が余儀なくされ、審美面で患者さまに心理的負担が生じている。そこで、レーザー治療後より負担の少ない処置が求められ、絆創膏のみならず、「コンシーラー」「スポットカバー」と言われる部分用カバーファンデーション使用によるカバー効果が期待される。しかしながら、使用する製品はまず安全性に留意し、レーザー治療後の皮膚への悪影響がない製品であることが望ましく、その上で患者さまの心理的負担を軽減するという観点からは、カバー性に優れ、使用性においても満足するものが求められる。

今回、これらを意図し（株）資生堂と共同開発したカバーファンデーション「ナビジョン スポッツカバー」について、頬に同程度の老人性色素斑を複数有する方を対象に、絆創膏の貼付による処置と、本品塗布による処置との無作為オープン対比較試験を行ったので、その安全性、カバー効果、被験者の評価を報告する。また、当クリニックで提唱している、週末にシミ治療を行えば週明けには「ナビジョン スポッツカバー」を用いて絆創膏等の貼付による心理的負担を感じることなく活動できるという、『ウィークエンドレーザー』という考え方について紹介する。

ランチョンセミナー 6 (同時通訳)

Long term histological evaluation of topical retinyl palmitate (a cosmetic retinoid) for restoring and maintaining healthy skin and assisting in natural vitamin D production.

Desmond Fernandes

Renaissance Body Science Institute Cape Town Department of Plastic Surgery, University of Cape Town

Vitamin A specifically as the storage form, retinyl palmitate, is a powerful sunscreensing agent and protects us from the sun but at the same time, because of this action is depleted in the skin from exposure to light. The metabolite of retinyl palmitate, retinoic acid is therefore severely reduced and consequently cannot fulfil all the functions of vitamin A on the DNA. Retinoic acid is the ligand for genes controlling growth, differentiation and maturation of skin cells and this depletion manifests as photo-ageing with the development of pigmentation, rough sallow skin and wrinkles. However, we need UV-B rays to make vitamin D in our skin to protect us from cancers and osteoporosis. We should expose ourselves to sunlight sensibly, apply topical vitamin A specifically as retinyl palmitate to restore vitamin A levels and use lower SPF sunscreens to protect but still allow the formation of natural vitamin D.